

第 4 3 回

「青森県農業経営研究協会賞」

受賞者業績

株式会社釈迦のりんご園

代表取締役 工藤 秀明 氏

(平川市広船)

令和 7 年 3 月

一般社団法人青森県農業経営研究協会

目 次

I 受賞者業績 P 1

- 1 経営の発展経過と概要 (P 2)
- 2 経営の特徴 (P 6)
- 3 今後の展望と課題 (P 9)
- 4 主な受賞歴 (P 10)
- 5 主な経歴 (P 11)
- ～ 写 真 ～ (P 12)

II 付属資料 P 13

- 表彰要領 (P 13)
- 選考委員名簿 (P 15)
- 歴代受賞者名 (P 16)

I 受賞者業績

第43回「青森県農業経営研究協会賞」受賞者

株式会社 釈迦のりんご園

代表取締役 工藤 秀明

- ・住所 平川市広船
- ・設立年月日 平成24年4月2日
- ・代表の年齢 65歳／昭和34年11月生まれ



■ 経営内容（令和5年）

農業労働力	株式会社 釈迦のりんご園 代表取締役 工藤 秀明 常勤役員 2人（本人、長男） 常時雇用 6人（うち家族従事者3人） 臨時雇用 4人（延べ600日／年程度、フレックスタイム制）
経営耕地面積	樹園地 500a（自作地45a、借地455a）
主な 作付品目等	りんご 500a（普通台木250a、わい性台木250a） 〈品種構成〉 ふじ 60% 王林、早生ふじ、つがる、その他 各10%

【業績】

- 1 完熟堆肥による土づくりと自家製造した有機液体肥料の葉面散布など従来の栽培法に独自技術を組み合わせたりんご栽培技術の実践
- 2 良食味・高品質なりんごの継続的生産により首都圏実需者等への直接販売を実現し販売額を飛躍的に増大

1 経営の発展経過と概要

（１）就農の経緯

株式会社釈迦のりんご園の代表取締役である工藤秀明氏は、青森県立柏木農業高等学校卒業後に旧青森県りんご試験場の研修課程に進み、りんご栽培の基礎技術を２年間学んだのち、昭和 55 年に就農した。

青森県りんご品評会で農林水産大臣賞を受賞した父の背中を見て育ち、平川市の中山間地でのりんご栽培の高い技術とプライドを持った広船集落の諸先輩方にも鍛えられるなど、若い生産者がりんごの生産技術を身につけるのには最高の産地環境の中で、土づくりを基本とした独自の栽培技術を磨き上げてきた。

（２）発展の経過

平成 3 年のりんご台風で大きな被害を受けた際、仲間らは経営再建に向けてコスト削減や外観重視の栽培にシフトする中、工藤氏は、こんな時だからこそ、りんご本来の味と品質を極めるべきだとの想いを強くし、土づくりを基本とした化学肥料と除草剤を使用しないりんご栽培への挑戦を始めた。

約10年間にわたる試行錯誤の結果、りんごを食べた誰もが味と品質の違いを実感できるまでに技術レベルを高め、各種品評会で上位入賞を続け、全国のりんご産地の頂点を極めた生産者の一人として県内外の生産者からも一目置かれている。

また、経営規模の拡大と改植等による品種構成の改善にも取り組み、優れた生産性と味・品質を両立できるりんご経営の基礎を築き上げた。

平成24年には「株式会社釈迦のりんご園」を設立して、青果店や消費者への直接販売の取組を強化し、現在は法人設立前に比べ約 5 倍の販売額を達成している。

（３）経営の概要

経営面積は、りんご 5 ha の単作経営で普通台木とわい性台木が概ね 5 割ずつ、品種構成は、ふじ60%、王林・早生ふじ・つがる・その他品種が各10%で、平均単収は、10aあたり120箱（20kg／箱）程度となっている。

労働力は、常勤役員 2 人（本人と長男）、家族従事者 3 人を含む常時雇用 6 人、臨時雇用 4 人（延べ 600 日／年程度）となっており、臨時雇用については、完全フレックスタイム制で小さな子供のいる女性でも働きやすい就労環境となっている。

令和 5 年産りんごの販売額は 6,300 万円、法人としての当期純利益（税引後）は 140 万円となっている。

主な出荷と販売先は「銀座千疋屋」（東京都）への直接販売が40%、その他の青果店20%、自社HP及び大手Webショップ20%、ふるさと納税返礼品10%、その他10%となっており、コロナ禍以降はインターネットでの直接販売が伸びている。

〈表 1〉主な取組経過

時 期	主な出来事	主な品目等
昭55年 4 月	就農（農業高校を卒業後、旧青森県りんご試験場で2年間の研修を経て親元へ就農）	りんご 2.7ha
平 3 年 9 月	台風19号被害	土づくりを基本とした良食味・高品質栽培、規模拡大と改植への取組を強化
昭55年～	青森県りんご品評会において上位入賞（親子3代で全県第一席を通算10回以上受賞／令和6年現在）	
平21年～	直接販売の拡大に向けた営業活動を強化	「銀座千疋屋」（東京都）との直接取引を開始
平24年 4 月	「株式会社釈迦のりんご園」を設立	りんご 4.7ha 販売額 約1,300万円
平25年	氷温冷蔵施設とフルーツドライヤーの導入	平成25年度農山漁村6次産業化対策事業（乾燥りんごの商品化）
平26年～	土づくり勉強会グループ 「The Earth（アース）」の発足	会員数 10名（令和6年現在） 年間3回程度の勉強会を不定期で開催
平28年	農文協刊「現代農業」へ連載記事を執筆（平成28年3月号から12月号まで計8回）	連載名：彫りの深いリングでチャンピオン
令 2 年	青森県りんご品評会と併催された「ふじ」生誕80周年記念『全国ふじコンテスト』で全県第一席を受賞	青森県産りんごのほか長野県や山形県からの出品も含め審査
令 3 年～	品種名「はるか」の無袋果実をブランド名『釈迦りんご』で販売開始	「銀座千疋屋」において『釈迦りんご』1個1,080円、限定800個が即時完売
令 6 年 7 月現在		りんご 5.0ha ・普通台木 2.5ha ・おい性台木 2.5ha 販売額 6,318万円（令和5年） 品 種 ・ふじ（6割） ・王林、早生ふじ、つがる、その他（各1割）

〈表 2〉 家族と労働力

区 分	生年月	年間農業 従事日数	役割分担
常勤役員			
工藤 秀明（本人）	S34. 11	250 日	代表取締役、経営全般
工藤 峰之（長男）	S59. 12	250 日	専務取締役、経営全般
常時雇用			
家族従事者（母、妻、長男妻）	—	各 200 日	一般管理、経理事務
雇用者（3 人）	—	各 200 日	一般管理
臨時雇用（4 人）	—	延 600 日	一般作業（4～12 月） フレックスタイム制

〈表 3〉 経営耕地面積

（令和 5 年・単位：a）

地 目	園の状況	面 積			
		所有地	借入地	共有地	計
樹園地	成園	45	455	—	500
計		45	455	—	500

〈表 4〉 主な農作物の生産・販売状況

① 農産物等の実績

（令和 5 年産・単位：箱(20kg)、円）

作 物 名	作付 面積	数 量		仕向け内容		
		10 a 当たり 収量	総量	販 売		
				数量	単価	販売額
りんご	500a	120 箱	6,000 箱	—	—	—
青果店への直販	—	—	—	2,500 箱	10,158	25,394,326
Web ショップ等				2,000 箱	6,593	13,185,833
（加工品仕向け）				(1,500 箱)	—	—
計	—	—	—	4,500 箱	8,573	38,580,159

注）単価の 1 円未満は四捨五入

② 加工品の実績

(令和5年・単位：箱(20kg)、円)

加 工 品	販 売				仕向け先
	数 量	りんご 箱数	単価	販売額	
りんごジュース	20,000 本	1,000 箱	1,200	24,000,000	青果店への直販、 Web ショップ等
干しりんご	1,500 袋	500 箱	400	600,000	
計	—	1,500 箱	—	24,600,000	

注) 単価の1円未満は四捨五入

〈表5〉経営の推移

(単位：円)

区 分		令和3年産 (R3.4～R4.7)	令和4年産 (R4.8～R5.7)	令和5年産 (R5.8～R6.7)
粗 収 益	販 売 額	79,626,776	58,731,427	63,180,159
	家事消費	0	0	0
	雑 収 入	7,419,726	1,591,055	7,663,595
	棚卸(期末一期首)	△3,659,160	2,439,144	3,004,461
	計	83,387,342	62,761,626	73,848,215
所得(税引後当期利益)		△2,399,571	519,314	1,425,218

注1) R3年産は、会計期間の変更にともないR3.4月～R4.7月までの16か月分を通算
(記載額は、第10期(12か月)と第11期(4か月)の2期通算の金額)

注2) 雑収入には補助金を含む



開花期のりんご園

2 経営の特徴

（１）生産面

りんご栽培では、花芽形成から開花・結実・着果・肥大などの生理生態を踏まえた樹体管理から、天候、土壌、地下水位、雑草、病虫害等の周辺環境と様々な技術が複雑に絡んでいる。工藤氏は、園地をよく観察し、完熟堆肥による土づくりと自家製造した有機液体肥料の葉面散布など、従来の栽培法に独自技術を組み合わせた栽培を実践している。

- ①化学肥料と除草剤を一切使わず、地域の畜産農家から提供される完熟堆肥と肥料メーカーへ配合を依頼し独自の有機質肥料による土づくりを実践
- ②りんごの葉を健康に保ち、食味（糖度、酸度、食感等）を向上させるため、魚腸木酢（木酢液にニンニクや魚のアラ、カキ殻などを漬け込んで溶かした、アミノ酸やミネラルが豊富な有機液体肥料を自家製造）の葉面散布を実施
- ③樹上で完熟させた果実は収穫後、自社の氷温冷蔵施設（収容量 3,000 箱）と賃借しているりんご冷蔵庫で保管し、ふじ以外の品種は、スマートフレッシュ処理することで過熟を抑え、長期の鮮度保持を実現
- ④上記のほか、樹を健全に育てるため複数の技術をバランス良く組み合わせた栽培体系の実践（例えば、剪定は、夏場の徒長枝の伸びや止まり、葉や果実の状態の記録等を参考にし、地上部と根部のバランス（T/R率）などを重視している。）

青森県りんご品評会において、親子3代にわたって全県第一席を通算10回以上受賞した実績は、徹底した土づくりと独自の栽培技術を積み上げることにより成し遂げられたものである。

（２）加工面

自社産原料を活用したりんごジュースの製造を外部に委託し、りんごづくりへの想いをブランド名『百年の想い』に託し、年間2万本（720ml 瓶、原料りんご換算で約1,000箱分）を販売している。

また、平成25年度には国庫補助事業を活用してフルーツドライヤーを導入し、干しりんご1,500袋（スライスまたは八つ切り、1袋25g入り）を自社製造している。

（３）流通・販売面

以前は農協と市場出荷が主体だったが、各種品評会において入賞した実績を武器に青果店や消費者への直接販売を強化した。

平成21年から老舗果物専門店「銀座千疋屋」と直接取引を開始し、現在は、同店の看板商品として全品種を出荷している。この取引を契機に、食味と食感に特化した商品づくりにも取り組み、令和3年には「はるか（岩手大学で育成の黄色品種）」の無袋栽培で糖度を22～25度まで上げたりんご（ブランド名『釈迦りんご』）が、店頭価格1,080円／個で販売され、限定800個が即時完売した。

（４）経営管理

日常の伝票整理や労務管理、受注や発送、代金回収等の顧客管理などは自社で行い、決算及び税務申告は税理士に委託している。月毎の経理状況を把握しながら、必要に応じて外部資金（役員借入を含む）を調達し、冷蔵施設などの大規模な設備投資にあたっては、補助事業や制度資金を積極的に活用している。

（５）担い手育成

実践している栽培技術はオープンにし、自身の新たな人脈形成や技術習得の機会の拡大につなげている。

また、積極的な情報の収集と分析、発信、実践力に加え、りんご栽培に対する信念と情熱に魅了され、県内外から若手生産者や消費者等が自然と集まる中、平成26年に土づくりを主体とした勉強会グループ「The Earth（アース）」を立ち上げ（会員数10名／令和6年現在）、年間3回程度の勉強会を不定期で開催している。

このほか、青森県営農大学校の研修などを随時受け入れ、地域農業の発展に貢献している。

〈表６〉農機具等の所有状況

（単位：台、円）

No.	種 類	規格・能力	台数	取得年	取得価額
1	スピードスプレーヤー	1,000ℓ	1	H29.3.1	8,208,540
2	ショベルローダー	40ps	1	R5.6.1	5,000,000
3	セルフローター	4 t	1	R6.6.1	5,000,000
4	トラクター	30ps	1	H25.9.27	3,446,865
5	フォークリフト	1.5t	2	H30.10.23	1,500,000
6	乗用草刈機	サイドモア	2	H3.2.26	1,298,000
7	高所作業台車		3	R6.2.13	761,400
8	フルーツドライヤー		1	H26.3.3	1,443,750

〈表７〉施設・建物の所有状況

（単位：円）

No.	種 類	構造	規模	取得年	取得価額
1	倉庫 1（冷蔵庫選果場）	鉄骨	37坪	H26.3.28	30,814,000
2	倉庫 2（格納庫）	鉄骨	50坪	H30.10.23	25,838,535
3	倉庫前舗装	コンクリート舗装		H30.10.23	10,396,465

〈表 8〉 経営収支

(令和 5 年・単位：円)

費 目	経営全体	品 目 別	
		りんご	
粗 収 益	73,848,215	73,848,215	
経 営 費	72,422,997	72,422,997	
種苗費	538,964	538,964	
肥料費	1,299,232	1,299,232	
農薬費	3,363,664	3,363,664	
動力光熱費	2,556,665	2,556,665	
諸材料費	776,185	776,185	
農具費	702,785	702,785	
修繕費	3,742,200	3,742,200	
賃借料	2,183,555	2,183,555	
支払地代	1,500,000	1,500,000	
作業委託料	2,903,500	2,903,500	
作業用衣料費	202,730	202,730	
減価償却費（建物）	4,854,145	4,854,145	
減価償却費（機械）	856,850	856,850	
減価償却費（車両）	1,382,429	1,382,429	
減価償却費（果樹他）	288,194	288,194	
雇用費	15,670,077	15,670,077	
法定福利費	2,985,527	2,985,527	
福利厚生費	921,557	921,557	
荷造り運賃手数料	3,306,930	3,306,930	
委託販売手数料	75,240	75,240	
旅費交通費	534,026	534,026	
接待交際費	1,688,288	1,688,288	
事務消耗品費	514,704	514,704	
通信費	639,905	639,905	
新聞図書費	45,280	45,280	
共済掛金	747,842	747,842	
損害保険料	2,707,903	2,707,903	
租税公課	1,131,253	1,131,253	
支払手数料	408,442	408,442	
利子割引料	625,668	625,668	
商品仕入	3,916,368	3,916,368	
雑費	329,889	329,889	
役員報酬	9,023,000	9,023,000	
所 得（税引後）	1,425,218	1,425,218	

3 今後の展望と課題

(1) 今後の展望

主宰している勉強会グループ「The Earth」では、若い世代に将来のビジョンを描くことをすすめており、5年後、10年後、20年後、自分がどんな方向へ行きたいのか、計画を立てることが重要だと意識づけている。「The Earth」の門をたたいてくる若者の道しるべであり続けるとともに、その先を切り開いていく彼らを後押しできるような存在でありたい。自身を振り返っても、将来の展望が見えない仕事ほどつまらないものはないし、自営業というのは成功も失敗もすべて自分次第、だからこそ計画を立て、積み重ねていくことが必要であると考えている。

自身が若い頃に思い描いたことのおおよそを実現させ、次は世界を見つめている。海外に輸出することが目標じゃない、海外での生産も含め、世界中のバイヤーが日本に注目するような状況を作りたい、まだまだ夢の途中と工藤氏は語る。土に始まり土に還るとの思いで、おごりも妥協もせずに継続させつつ、りんごを作って売るのではなく、『健康な樹が育ててくれた果実を、人が納得できる味・品質・価格で届ける』ことで、りんごと人、人と人のつながりが見えるような事業の展開を目指している。

(2) 課題

労働力不足が深刻化する中で、他産業との競合が既に発生しており、農業分野においても、高性能機械やスマート農機、植物工場や高密度植栽培などの高能率な生産方式の導入が進められている。工藤氏は、効率的な生産方式の導入は産地として必要なことだが、生産効率だけを優先して、マニュアル化された革新技術の導入にはいささかの不安・疑問を感じている。

例えば、傾斜地での普通台木のりんご栽培を「非効率的」と切り捨てるのではなく、これまでの歴史と先人達の知識や経験の積み重ねと合理的な技術の組み合わせの結果として評価すべきと考えている。産地として技術の引き出しを多く持つことは、気象変動や災害、市場環境の急激な変化等にも柔軟に対応できるセーフティーネットの形成にもつながり、マニュアルやインターネットには載っていないたくさんの技術が目前の現場に潜在していることを若い生産者や指導者にしっかりと伝えた上で、新たなステップを踏み出すことが必要だと考えている。

また、現在の出荷規格や流通形態が、必ずしも消費者や実需者が望んでいるものではないことを、全てのりんご関係者が再認識しなければならない時期になっていると感じている。

日本一のりんご産地であり続けるためには、りんごに関わる全ての人が常に変化・進化し続けることが必要であり、新たな技術や品種、販売手法などの開発・普及が進んでいく中で、生産現場がどのように対応していくべきか、次世代を担う仲間たちと共に考えたいと語る。

4 主な受賞歴

（１）青森県りんご品評会

公益財団法人青森県りんご協会主催の「青森県りんご品評会」において、最高位の全県第一席（併せて、団体の部には農林水産大臣賞、個人の部には農林水産省生産局長賞が贈られる。）を親子3代（近年は法人役員の名義で出品）で通算10回以上、受賞している。

令和 6 年度	個人の部	全県第三席
令和 5 年度	個人の部	全県第一席
令和 4 年度	個人の部	全県第一席
令和 3 年度	個人の部	全県第二席
令和 2 年度	個人の部	全県第一席

※「ふじ」生誕 80 周年記念
『全国ふじコンテスト』を併催

令和 元 年度	個人の部	全県第二席
平成 30 年度	個人の部	全県第四席
平成 29 年度	個人の部	全県第二席
平成 27 年度	個人の部	全県第二席
平成 26 年度	個人の部	全県第一席
平成 24 年度	個人の部	全県第一席

注）全国ふじコンテストでは、青森県産りんご
ほか長野県や山形県からの出品も含め審査
された中、全県第一席を受賞



令和5年度



令和4年度

（２）「あおもりの土づくりの匠」認定

青森県では、「日本一健康な土づくり運動」の一環として、平成24年度から、県内の生産者の模範となる高度な土づくりに取り組む生産者を「あおもり土づくりの匠」として認定しており、工藤氏は平成26年度に認定されている。



収穫期のりんご園

5 主な経歴

(1) 略歴

- ・青森県りんご試験場 研修生OB会「園生会」顧問（令和元年～現在）
- ・青森県農業経営士（平成22年～現在）
- ・農文協刊「現代農業」へ連載記事を執筆
（平成28年3月号から12月号まで計8回、その他にも不定期での執筆あり）

(2) 農業生産組織等

- ・平川市認定農業者連絡協議会顧問（平成26年～現在）
- ・津軽みらい農業協同組合認定農業者協議会顧問（平成28年～現在）
- ・青森県りんご協会広船支会長（昭和55～61年）
- ・土づくり勉強会グループ「The Earth」主宰（平成26年～現在）

株式会社釈迦のりんご園

【命名の由来】

「真理」を突き詰め探求していく
仏教の開祖である『釈迦』の姿勢への
憧れと尊敬



裸同然で真理を求める『釈迦』への憧れ
そのときから釈迦のりんご園がスタートを切った
恐れ多くも『釈迦』の文字を使わせてもらったが
何の躊躇も感じていない
いつも原点であれ
真理を見失うことなかれ
これが釈迦のりんご園です

～釈迦のりんご園 HP から抜粋～

注) 株式会社釈迦のりんご園の「迦」の文字は
しんのような「点が1つ」が正式名



完熟堆肥の散布

魚腸木酢液の調製
～良質な木酢を求め岩手県へ～

木酢液にニンニクや魚のアラ、
カキ殻などを漬け込み 1 年間熟成



選果
(重量選果機＋目視と手選別)

老舗果物専門店
「銀座千疋屋」(東京都)



Ⅱ 付属資料

令和 6 年度 第 4 3 回青森県農業経営研究協会賞

【表彰要領】

1 趣旨

農業経営の改善について自ら実践し、優れた業績をあげた県内に居住する農業者個人または農業者の組織する団体を表彰することにより、本県農業発展の一助とするものである。

2 表彰の名称

本賞は、「青森県農業経営研究協会賞」（以下、「協会賞」という。）と称する。

3 主催

「協会賞」の選考及び表彰は、一般社団法人青森県農業経営研究協会（以下、協会という。）が主催する。

4 表彰候補者の推薦等の手続き

- （１）協会は、県内の市町村長、市町村農業委員会長、農業協同組合長及び地域県民局地域農林水産部長（以下、推薦機関の長という。）に表彰候補者の推薦を依頼する。
- （２）推薦機関の長は、管内に适当と認められる表彰候補者がいるときは、【別紙様式 1】推薦書に【別紙様式 2】概況調査票を添付の上、協会へ提出する。

提出期限 令和 6 年 9 月 3 0 日（月）必着

5 選考委員会の設置

- （１）協会は、理事長が任命する選考委員による選考委員会を設置する。
- （２）選考委員長及び副委員長は、委員の中から選定する。

6 表彰候補者の選考及び決定

選考委員会は、書類審査及び現地調査の結果を踏まえて令和 6 年 1 2 月までに表彰候補者を選定し、理事長がこれを決定する。なお、選考委員会及び現地調査における内容説明は、推薦機関が行うこととする。

7 選考の基準

表彰候補者の選考に当たっては、地域農業の中核として他の模範となり得る農業経営を実践し、あるいは6次産業化に積極的に取り組むことで経営改善につなげている次の個人または団体とする。

- (1) 経営改善意欲が高く、経営に計画性・発展性がみられること
- (2) 経営に工夫がみられ、他の模範となること
- (3) 地域農業の振興に寄与していること
- (4) 青色申告や総会資料等により収支計算が明らかになっていること

8 表彰の時期及び方法

- (1) 表彰は、令和7年3月に開催予定の表彰式において行う。
- (2) 表彰は、表彰状を授与するとともに副賞として楯及び賞金（10万円）を贈呈する。
- (3) 表彰者の業績内容は、広く関係方面に紹介する。

9 表彰の対象外

次のような全国あるいは全県規模の賞を既に受賞した者及び本年度に応募している者は、表彰の対象から除外するものとする。

- (1) 朝日農業賞・全国農業コンクール・農事功労者表彰・日本農業賞において、それぞれ中央賞を受賞した者
- (2) 田中稔賞・木村甚彌賞を受賞した者
- (3) 叙勲・褒章・県褒章・東奥賞を受けた者
- (4) 青森県攻めの農林水産業賞など、全県規模の他の賞に応募している者

10 その他

この要領に定めない事項については、理事長が別に定める。

青森県農業経営研究協会賞

【選考委員名簿】

(令和6年度)

氏 名	所 属 ・ 職 名
澁谷 長 生 (委員長)	国立大学法人弘前大学・名誉教授
渋谷 義 仁 (副委員長)	地方独立行政法人青森県産業技術センター・元理事長
相 場 仁	全国農業協同組合連合会青森県本部・営農部次長
神 康 仁	一般社団法人青森県農業会議・参与
久 野 文 夫	青森県農業経営者協会・会長
對 馬 和 春	青森県農林水産部農林水産政策課・総括主幹 (農業改良普及グループ・グループマネージャー)
須 藤 充	地方独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所・所長

注) 委員名簿は、令和6年10月に開催した「選考委員会」開催時の役職とする。

青森県農業経営研究協会賞

【歴代受賞者名】

回	年度	受 賞 者	(市町村名／部門名)
1	S57	笠 井 実	(五所川原市／水稻)
2	S58	宮 本 正 男	(十和田市／野菜)
3	S59	高 橋 勝 美	(三沢市／酪農)
4	S60	(該当なし)	
5	S61	境 谷 博 顯	(五所川原市／水稻主体)
6	S62	笹木営農集団組合	(森田村／水稻組織)
7	S63	中市水稻営農組合	(倉石村／水稻組織)
8	H 1	木 村 徳 英	(黒石市／りんご)
9	H 2	谷 川 強	(平賀町／野菜)
10	H 3	木 立 誠	(青森市／水稻・施設野菜)
11	H 4	原 田 僚	(金木町／りんご)
12	H 5	渋 川 良 一	(黒石市／水稻・施設野菜)
13	H 6	斎 藤 靖 彦	(弘前市／施設野菜)
	H 6	金 子 春 雄	(七戸町／肉用牛)
14	H 7	大 平 廣	(黒石市／りんご)
	H 7	野田頭 俊 一	(東北町／野菜)
15	H 8	寺 牛 伸 一	(三戸町／施設野菜)
16	H 9	相 川 忠 満	(車力町／野菜)
	H 9	梅 木 修 司	(六ヶ所村／酪農)
	H 9	神 晴 幸	(鰯ヶ沢町／りんご)
17	H10	原 英 輔	(むつ市／酪農)
	H10	笹 森 秀 郎	(下田町／野菜)
18	H11	石 黒 司	(黒石市／野菜)
19	H12	木 立 純 一	(平内町／酪農)
	H12	越 後 政 博	(三戸町／工芸作物)
20	H13	石 田 嘉 昭	(弘前市／野菜)
21	H14	津 川 登	(黒石市／りんご・水稻複合)
22	H15	岡 部 敏 雄	(六ヶ所村／酪農)
23	H16	秋田谷 長一郎	(市浦村／水稻・畑作、野菜複合)
24	H17	勝 山 陽 一	(むつ市／野菜)
25	H18	川 村 公 夫	(弘前市／野菜)
26	H19	(該当なし)	
27	H20	長 尾 信 彦	(五所川原市／花き・水稻・施設野菜)
28	H21	高 村 國 昭	(五戸町／野菜)
29	H22	長谷川自然牧場 長谷川光司・洋子	(鰯ヶ沢町／養豚)
30	H23	(該当なし)	

回	年度	受 賞 者	(市町村名／部門名)
31	H24	アグリネット 21	(東北町／野菜)
32	H25	大 湯 知 巳	(平川市／りんご)
33	H26	我 満 智	(青森市／施設野菜)
34	H27	宮 古 久 光	(三沢市／野菜)
35	H28	青森観光りんご園 川村忠則	(青森市／果樹・観光農業)
36	H29	間 山 直 浩	(青森市／りんご)
37	H30	寺 澤 和 夫	(七戸町／野菜)
38	R 1	千 葉 晋	(むつ市／繁殖牛)
39	R 2	おとべ農産合同会社 乙部英夫	(東北町／野菜)
40	R 3	沼 畑 俊 一	(南部町／野菜・果樹・ブロイラー)
41	R 4	黒 滝 彰	(つがる市／水稻・野菜・加工品)
42	R 5	(該当なし)	
43	R 6	株式会社釈迦のりんご園 工藤秀明	(平川市／りんご)

注) 市町村名及び団体名は受賞時のものとする。

当協会ホームページも併せて御覧ください。

<https://www.aomorinokeiken.com/>



一般社団法人
青森県農業経営研究協会

ホーム	協会とは	表彰事業	奨励贈及事業	農業経営研究等支援事業	調査委託事業	関連リンク
-----	------	------	--------	-------------	--------	-------



令和 7 年 3 月

監修及び編集者 第 4 3 回青森県農業経営研究協会賞選考委員会
委員長 澁 谷 長 生
副委員長 渋 谷 義 仁
地方独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所
青森県中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室

発 行 者 一般社団法人青森県農業経営研究協会
青森県黒石市田中 82-9
TEL 0172-53-7910 FAX 0172-40-4161

印 刷 所 ワタナベサービス株式会社
青森県青森市安方二丁目 17-3
TEL 017-777-1388 FAX 017-735-5982